

# 北海道中小企業家同友会景況調査報告 (2014年4～6月期)

文責：大貝健二

札幌市豊平区旭町 4-1-40 北海学園大学経済学部内

TEL:011-841-1161/E-mail:ogai@econ.hokkai-s-u.ac.jp

## 業況指数マイナスに転落

### —増税の反動大きく、低迷長期化が懸念—

北海道中小企業家同友会 2014年第2期(4～6月)の業況判断DI(前年同期比)は前期調査の14.4から▲9.4へと23.8ポイントもの大幅な悪化を示した。20ポイント以上の悪化は、2007年のサブプライムローンバブルの崩壊時期を上回る悪化幅である(当時は17.2ポイントの悪化)。さらに、前回調査の次期見通しを上回る悪化を示した指標も散見され、景気の悪化を深刻に捉えているマインドが感じられる。次期見通しは▲5.1であり、今回の景気後退は長期化する可能性がある。

業種別業況判断DIでは、全業種で悪化した。なかでも、建設業は17.6ポイント(6.7→▲10.9)、流通・商業は39.7ポイント(32.4→▲7.3)、サービス業は19.2ポイント(▲7.1→▲26.3)と大幅な悪化を示した。次期は、建設業と製造業でさらに悪化する見通しである。流通商業では水面上へ浮上する見通しであるが、全体としては改善の力は弱い。

業況判断の悪化要因をみてみよう。まず、「採算が悪化した理由」で、「売上数量・客数の減少」の回答割合が10ポイント以上上昇しており、増税の反動が強いことが1つ目の要因である。第2に、「経営上の問題点」では、「仕入単価の上昇」が最も割合が高く、「同業者間の価格競争の激化」、「民間需要の停滞」が続き、不況時に典型的な回答が並び始めている。川上インフレ、消費増税の反動による二重苦、さらに電気料金の高止まりを加えた三重苦の状況が生まれている。

今期の調査は、ほぼすべての指標(業況判断、売上高、採算、業況水準)で大幅な悪化を示した。7月以降、景気は上向くという楽観的観測が根強くあるが、そうは思わない方がよいだろう。北海道では、実感がないままに景気拡大マインドが膨張し、实体经济との乖離が進んだ可能性がある。経営指針の見直し等、地に足つけた経営を行うことは当然であるが、この間の景気拡大局面が本物だったのか否か、検証する必要があるだろう。

《景況調査について》

- ・景況調査は、**回答者の意識・マインド**を基に景況動向を分析する調査です。
- ・特に、同友会が実施する景況調査は、**経営者の意識**を反映するものであるため、**景況動向がはっきりと表れやすい**と言われています。
- ・景況動向、および「次期見通し」を**自社の経営指針等の見直し等**に活用してください。

《DI 値について》

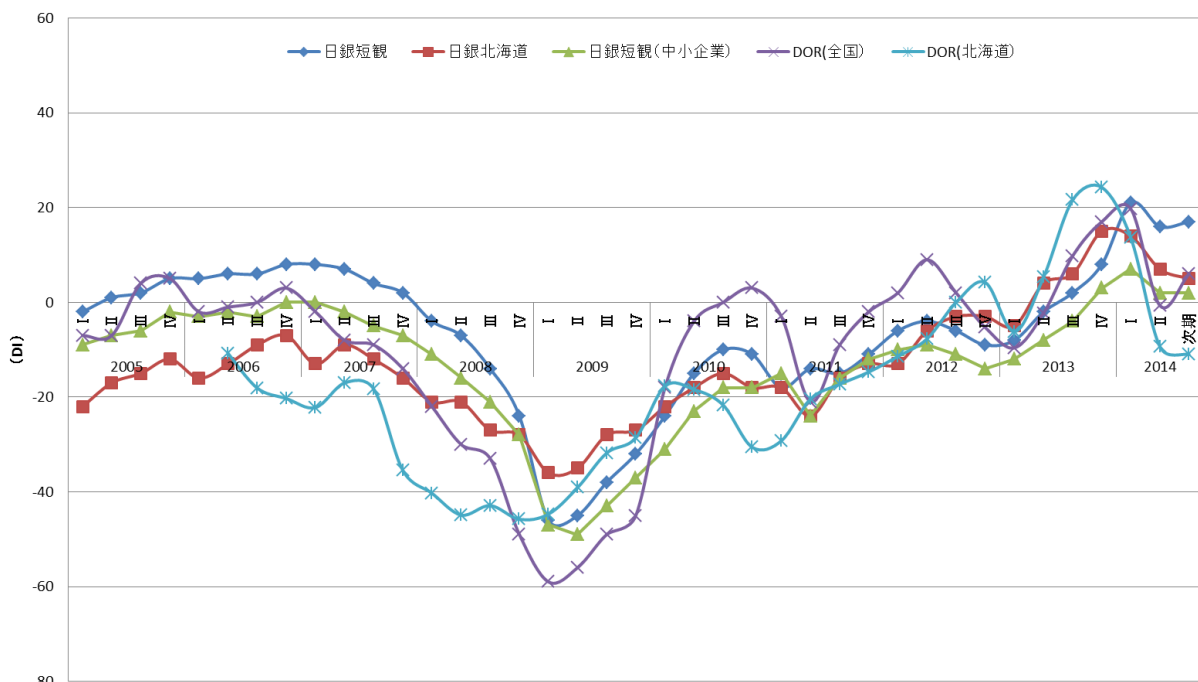
- ・DI 値は、「良い」と回答した割合 (%) から「悪い」と回答した割合 (%) を引いた数値
- ・「良い」と回答した企業が多ければ多いほどDI は高水準で推移するが、その逆もしかり。
- ・景況調査では、**(1) DI 値の水準 (プラスかマイナスか、また水準ほどの程度か)、(2) 前回調査からの好転幅、悪化幅の大きさ**を主に見ていきます。
- ・DI 値の変化幅について、
  - ①1 ポイント以内の場合：「**ほぼ横ばい**」と表現します。
  - ②1～5 ポイントの場合：「**やや**」という言葉が、好転・悪化の前に付きます。
  - ③10 ポイント以上の場合：「**大幅な**」という言葉が、好転・悪化の前に付きます。

1. 業況判断 DI (前年同期比) が 14.4 から-9.4 へ、**23.8Pt の大幅悪化**

※前回調査の次期見通しよりも水準は下 (前回の次期見通しは-21)、予想を上回る悪化！！

※20 ポイント以上の悪化は 2006 年以降では経験がない、リーマンショック期で 17.2Pt の悪化

業況判断DIの推移



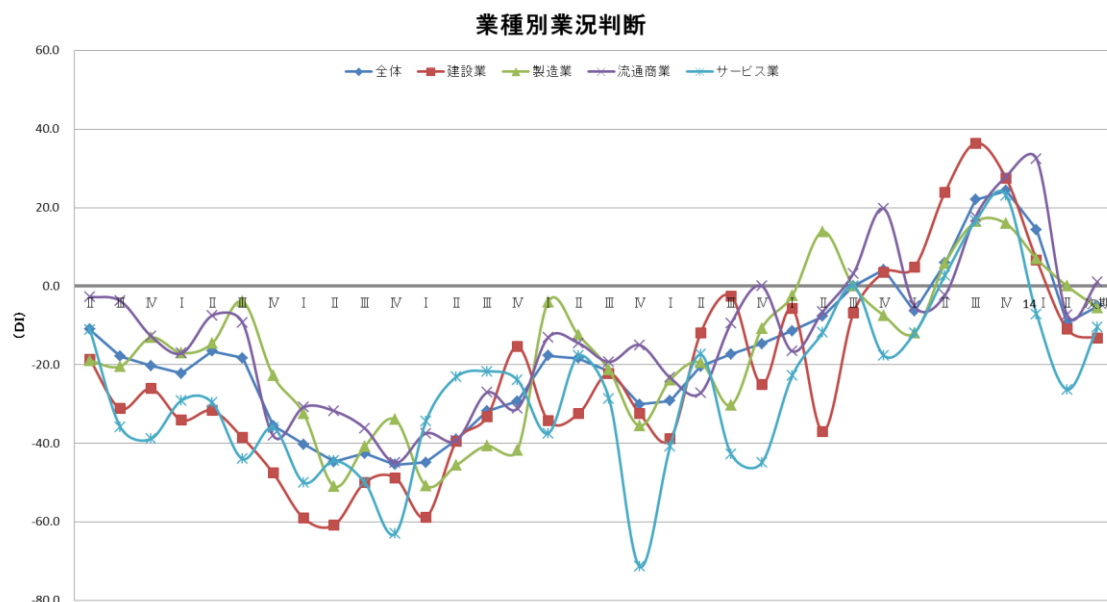
出所:日本銀行短観、中間協DOR調査、北海道同友会DOR調査より作成。

## 1-2. 業種別業況判断

建設業：17.6Pt の大幅な悪化（6.7→▲10.9）、製造業：7.0Pt の悪化（7.0→0）

流通商業：39.7Pt の大幅悪化（32.4→▲7.3）、サービス業：19.2Pt の大幅悪化（▲7.1→▲26.3）

次期見通し：建設業、製造業でさらに悪化する見通し（水面下見通しが目立つ）

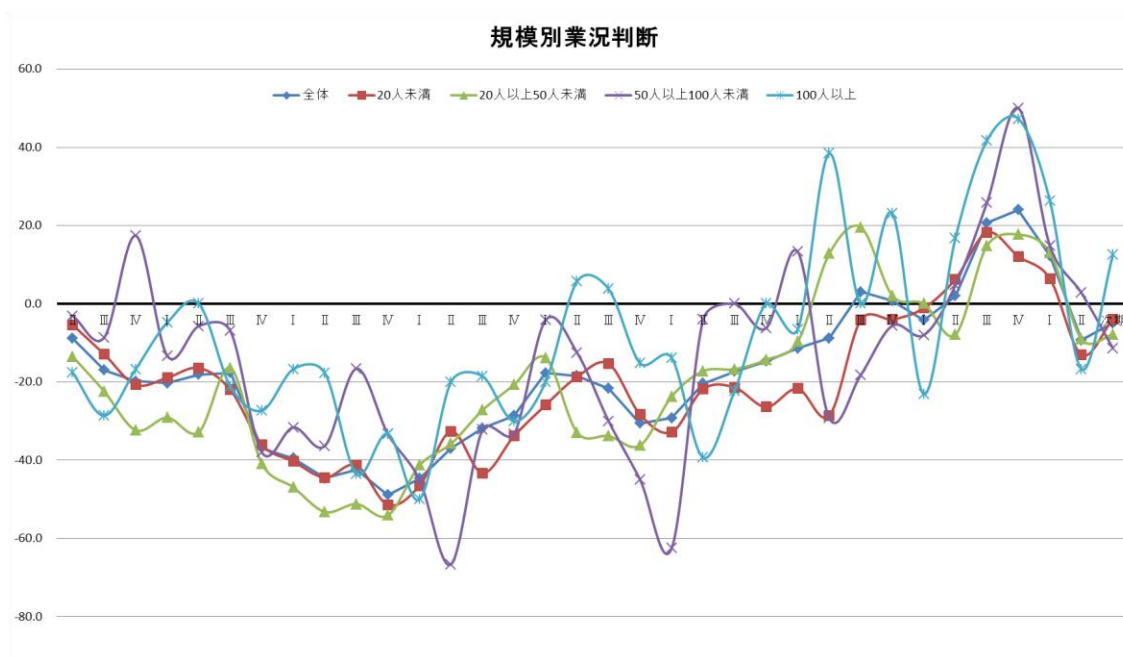


## 1-3. 規模別業況判断

20 人未満：19.4Pt の大幅悪化（6.4→▲13）、20～50 人：22.1Pt の大幅悪化（13.1→▲9）

50～100 人：12.0Pt の大幅悪化（14.8→2.8）、100 人以上：43.0Pt の大幅悪化（26.3→▲16.7）

次期見通し：50 人以上 100 人未満規模層で大幅悪化見通し、それ以外では改善（但し水面下）



## 2. 売上高DI、採算DI、採算水準、業況水準（前年同期比）

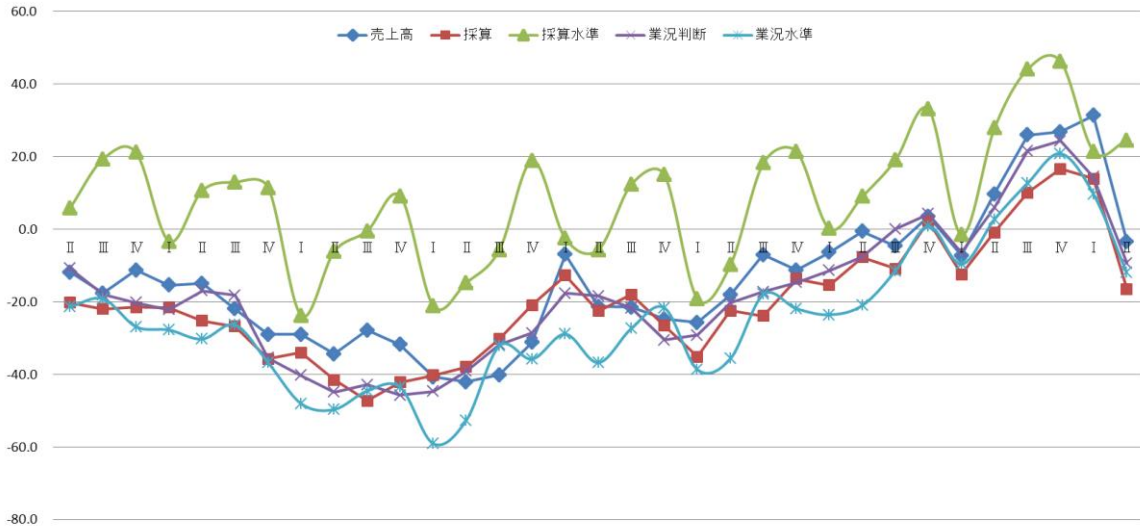
【売上高】 全体：34.7Ptの大幅悪化（32.3→▲3.4）（次期：6.1Ptの改善、▲3.4→2.7）

【採算】 全体：30.5Ptの大幅な悪化（13.9→▲16.6）（次期：改善、13.9→▲11.1）

【採算水準】 全体：2.6Ptとやや改善（21.4→24.0）前期の悪化は周期的なもの、改善幅が小さい

【業況水準】 全体：9.6から▲12.0～11.2Ptの大幅な悪化

売上高・採算・採算の水準・業況水準



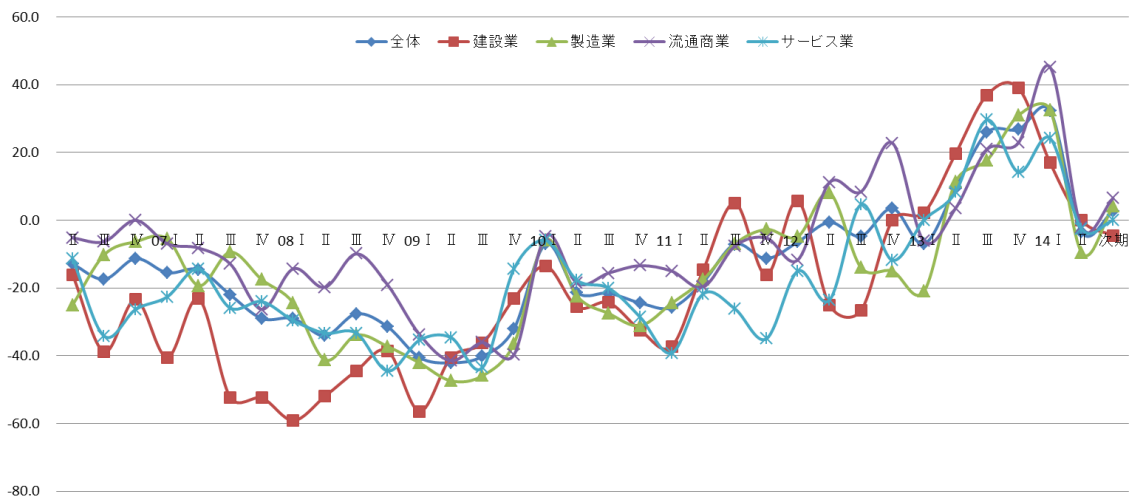
### 2-1. 業種別売上高：全業種で大幅悪化、製造業、流通商業では40Pt以上の大幅な悪化

建設業：17.0Ptの大幅悪化（17.0→0.0）、製造業：42.1Ptの大幅悪化（32.6→▲9.5）

流通商業：47.4Ptの大幅悪化（45.2→▲9.5）、サービス業：25.0Ptの大幅悪化（24.2→▲2.6）

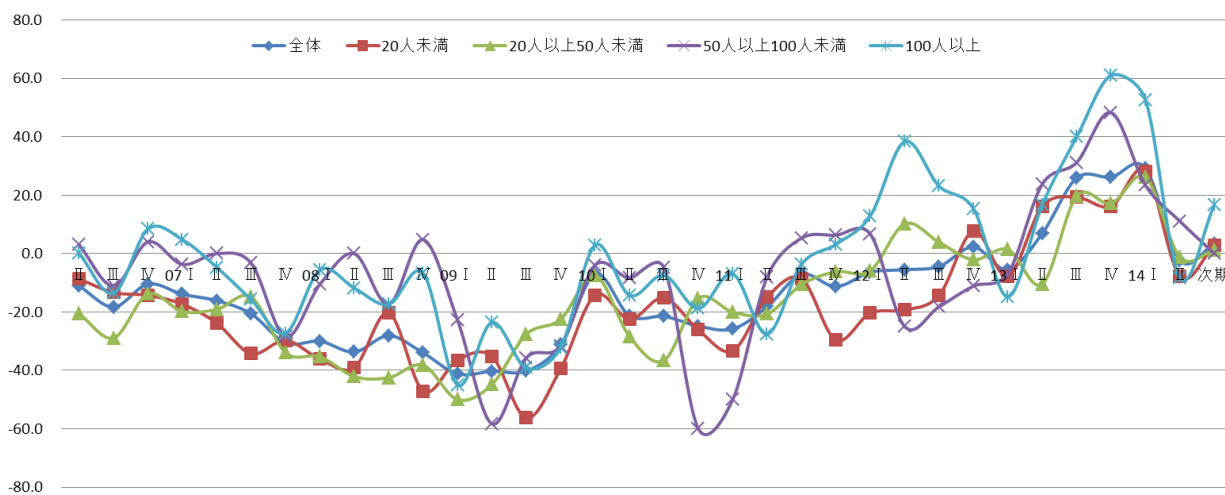
次期見通し：建設業以外で改善見通し

業種別・売上高



2-2. 規模別売上高：全規模層で大幅な悪化、「50人以上100人未満」規模を除いて水面下へ  
 20人未満：36Ptの大幅悪化（28.2→▲7.8）、20～50人：27.4Ptの大幅悪化（26.2→▲1.2）  
 50～100人：12.3Ptの大幅悪化（23.4→11.1）、100人以上：61.0Ptの大幅悪化（52.7→▲8.3）  
 次期見通し：50人以上100人未満規模で大幅な悪化見通し、それ以外では改善見通し

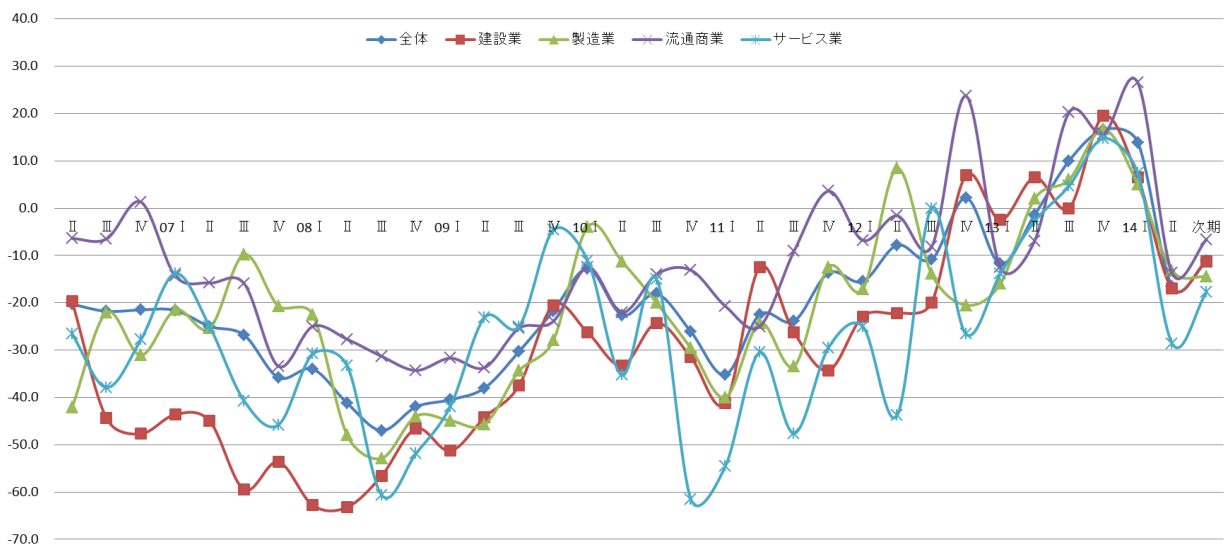
規模別・売上高



2-3. 業種別採算：全業種で大幅な悪化（次期：製造業を除いて改善）

建設業：23.5Ptの大幅な悪化（6.5→▲17.0）、製造業：18.2Ptの大幅な悪化（5.0→▲13.2）  
 流通商業：40.2Ptの大幅悪化（26.5→▲13.7）、サービス業：36.0Ptの大幅悪化（7.4→▲28.6）  
 次期見通し：製造業を除いて改善する大幅な悪化見通し（製造業は悪化見通し）

業種別・採算



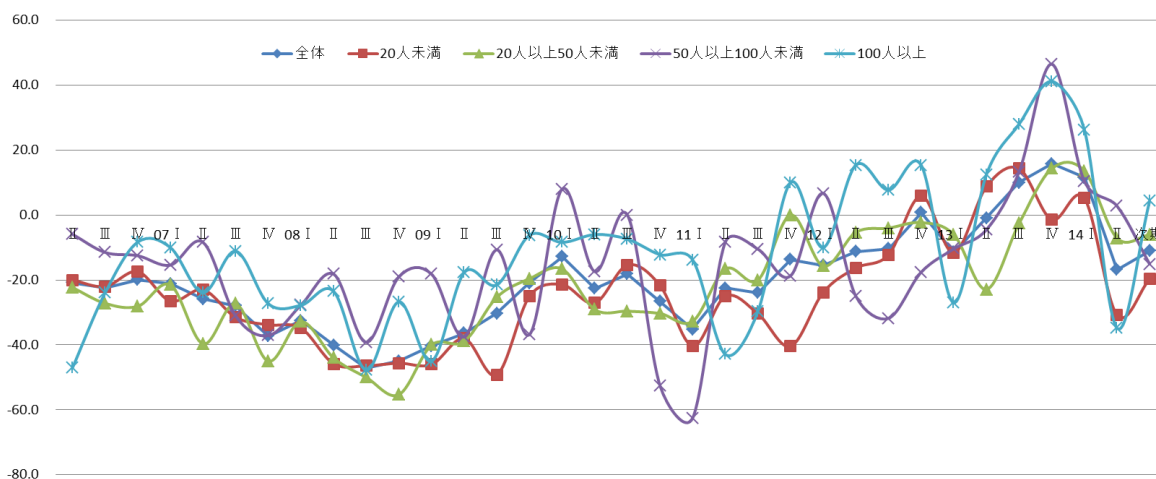
## 2-4. 規模別採算：全規模層において（大幅な）悪化

20人未満：36.0Ptの大幅悪化（5.2→▲30.8）、20～50人：20.7Ptの大幅悪化（13.6→▲7.1）

50～100人：7.6Ptの悪化（10.4→2.8）、100人以上：61.1Ptの大幅悪化（26.3→▲34.8）

次期見通し：50人以上100人未満規模において大幅な悪化、それ以外は改善見通し

規模別・採算

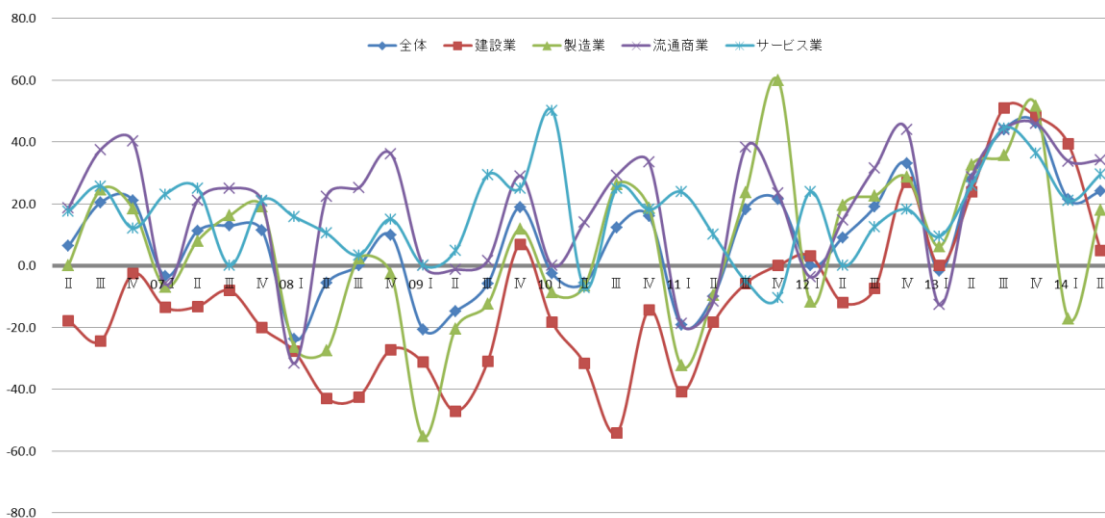


## 2-5. 業種別採算の水準：建設業の悪化、製造業の改善が目立つ

建設業：34.4Ptの大幅悪化（39.3→4.9）、製造業：35.2Ptの大幅改善（▲17.2→18.0）

流通商業：ほぼ横ばい（33.8→34.1）、サービス業：8.5Ptの改善（21.0→29.5）

業種別・採算の水準

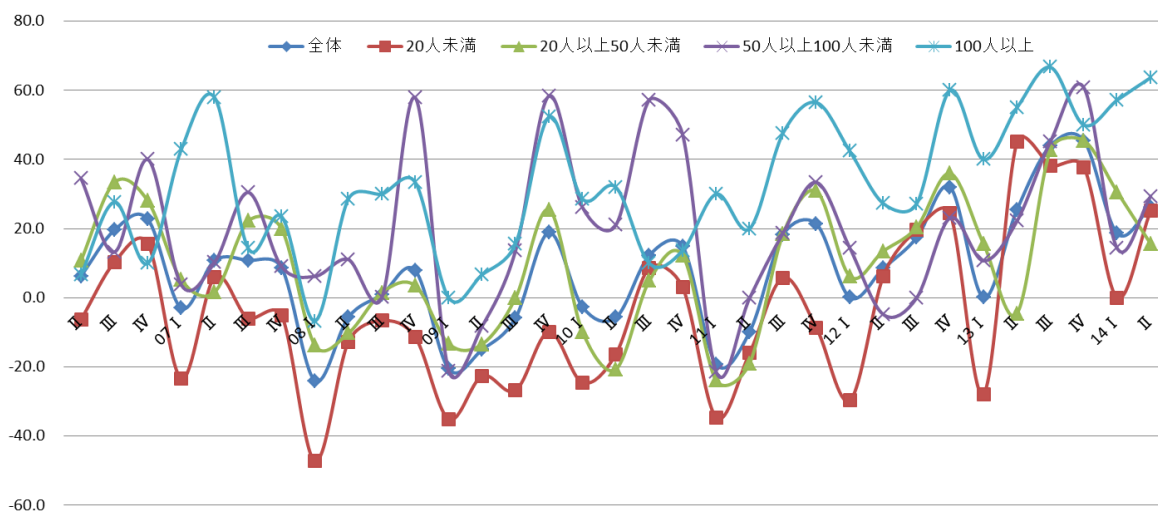


2-6. 規模別採算の水準：20人以上50人未満規模で悪化、その他は改善

20人未満：25.3Ptの大幅改善（0.0→25.3）、20～50人：15.0Ptの大幅改善（30.6→15.6）

50～100人：15.1Ptの大幅改善（14.3→29.4）、100人以上：11.5Ptの大幅改善（57.2→63.7）

規模別・採算の水準



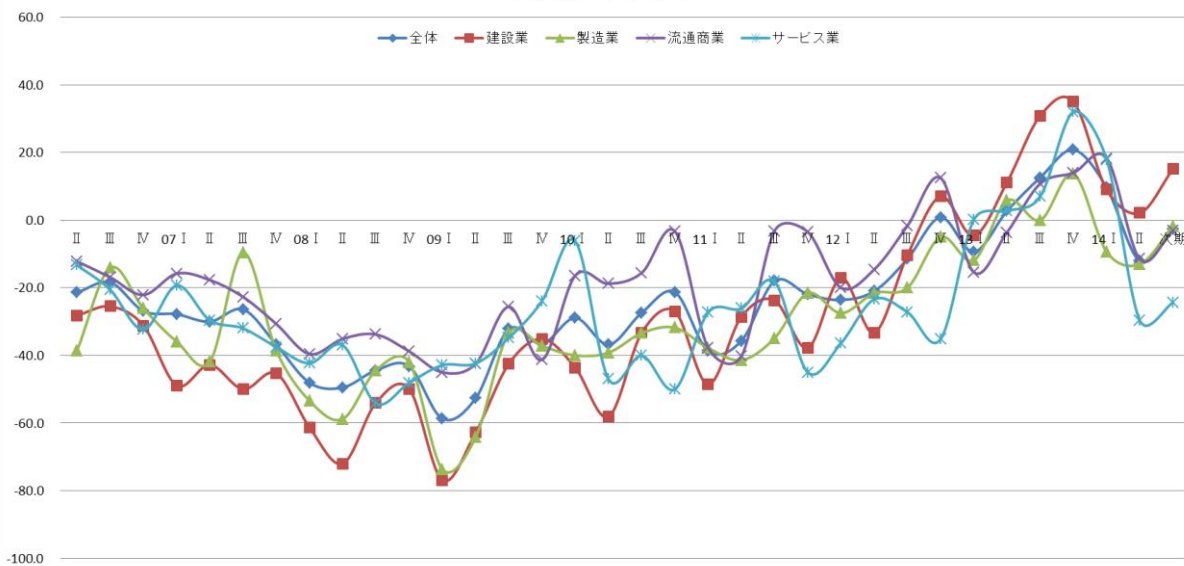
2-7. 業種別業況の水準：建設業を除いて10Pt以上の大幅悪化、建設業は悪化

建設業：21.6Ptの大幅悪化（9.0→▲12）、製造業：3.6Ptのやや悪化（▲9.4→▲13.0）

流通商業：30.3Ptの大幅な悪化（18.3→▲12）、サービス業：47.9Ptの大幅悪化（17.9→▲30）

次期見通し：全業種で改善、但し建設業を除いて水面下での推移

業種別・業況水準





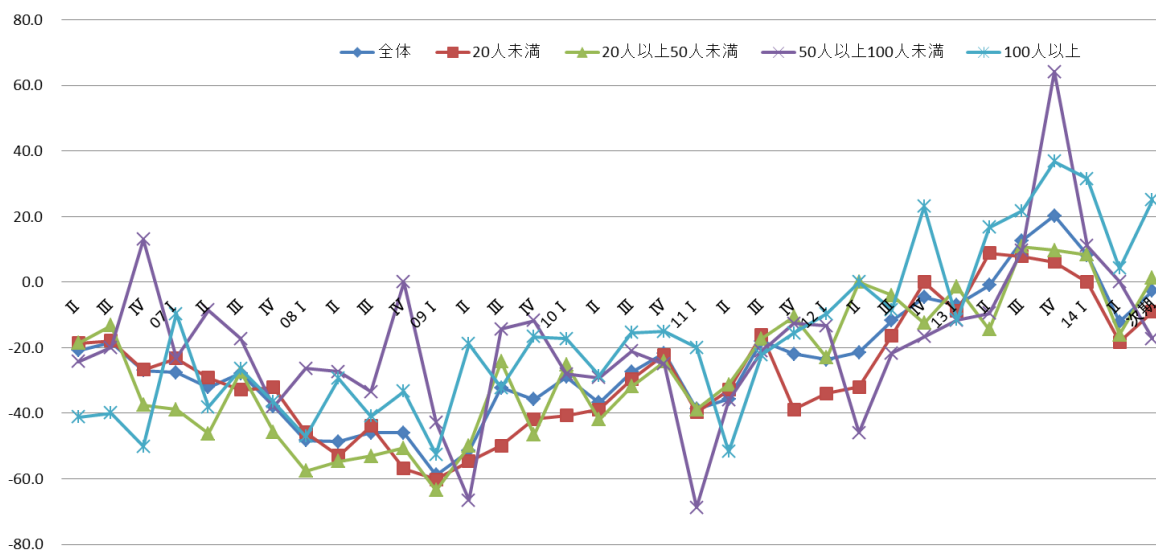
## 2-8. 規模別業況水準：全規模層で大幅な悪化

20人未満：18.2Ptの大幅悪化（0.0→▲18.2）、20～50人：24.4Ptの大幅悪化（8.4→▲16.0）

50～100人：11.0Ptの大幅悪化（11.1→0.1）、100人以上：27.3Ptの大幅悪化（31.5→4.2）

次期見通し：50人以上100人未満規模で大幅な悪化、それ以外で改善見通し

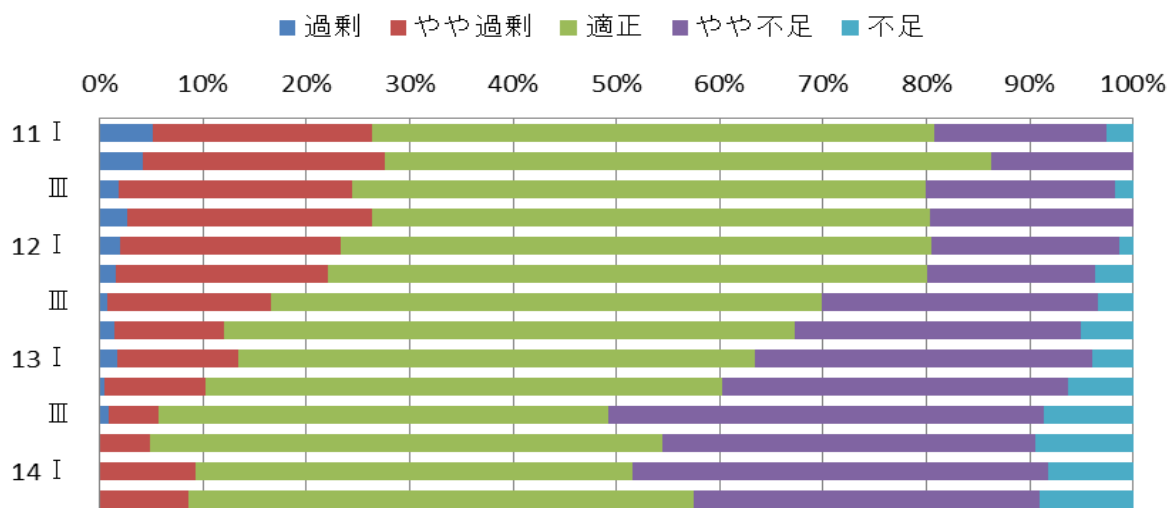
### 規模別・業況水準



## 3. 人手の過不足、資金繰りの状況、設備の過不足

【人手の過不足】不足感が前回より4.4Pt低下し42.5%、過剰感は8.6Ptほぼ横ばい

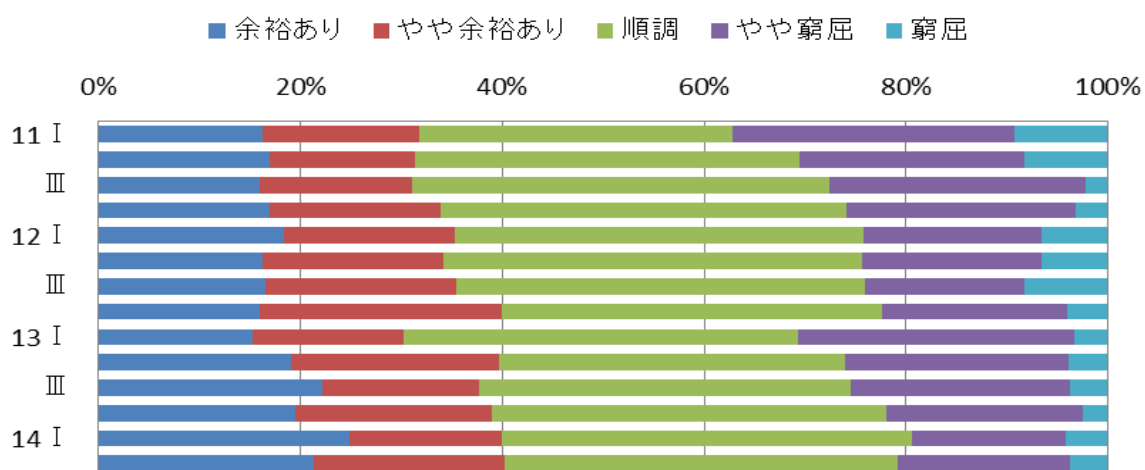
### 人手の過不足





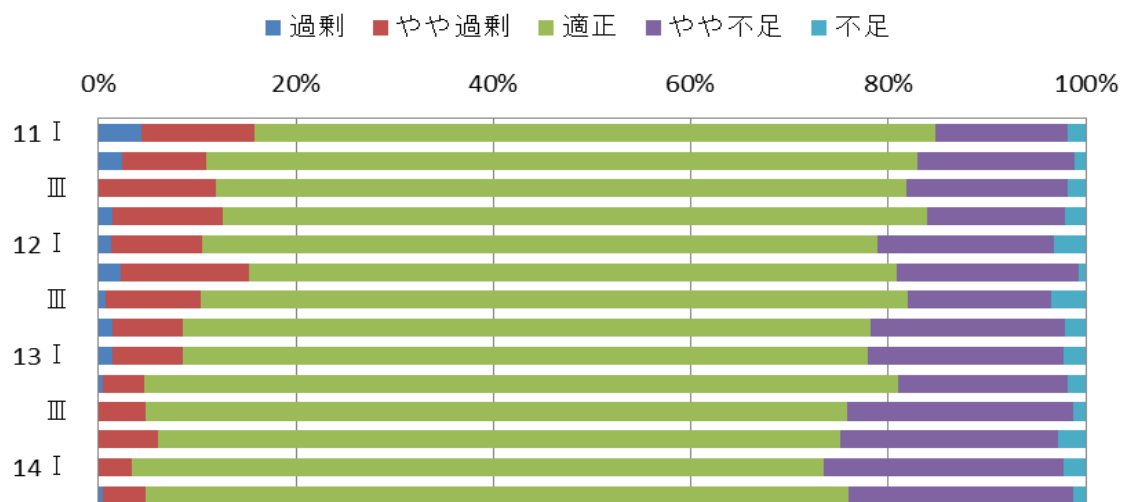
【資金繰りの状況】窮屈感、余裕感ともに微増

## 資金繰りの状況



【設備の過不足】適正感が7割で推移、不足感もやや後退

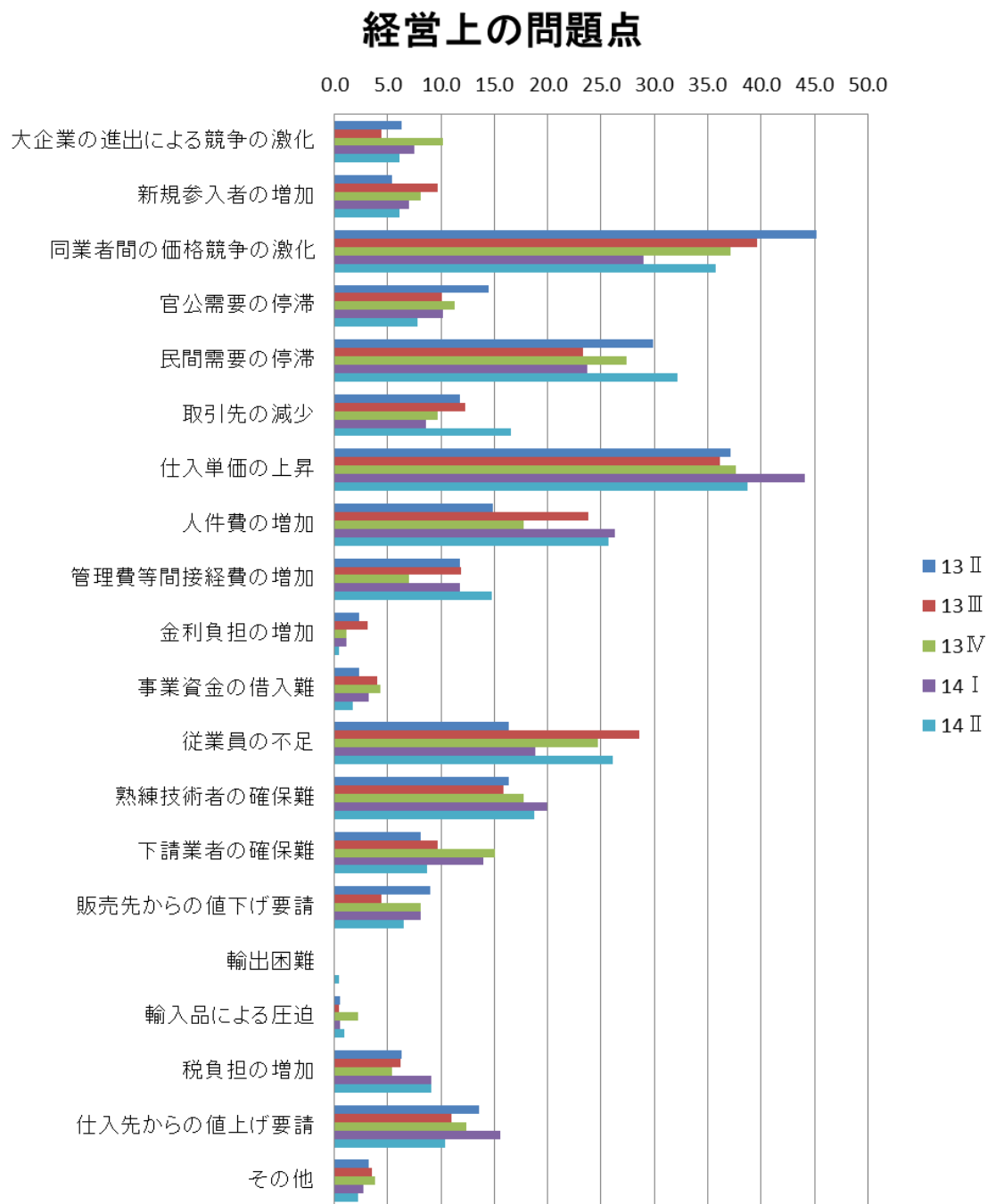
## 設備の過不足



#### 4. 経営上の問題点、次期の経営上の力点

経営上の問題点: トップ5は、「仕入単価の上昇」(38.7%)、「同業者間の価格競争の激化」(35.7%)、「民間需要の停滞」(32.2%)、「従業員の不足」(25.7%)、「人件費の増加」(25.7%)

※仕入れ単価の高止まりに需要の停滞が追い打ちをかける、川上インフレ状況下での不況局面



## 次期の経営上の力点

